

## 財団法人8020推進財団

平成20年度 歯科保健活動助成交付事業報告書抄録

1. 事業名：口腔機能（機能歯数）・歯周病（歯肉溝バイオマーカ―検査）と認知症進行に関する地域前向き調査事業

2. 申請者名：京都府歯科医師会上京支部

3. 実施組織：京都府歯科医師会上京支部、京都府歯科衛生士会上京支部、協力精神科医師、協力歯科医師

協力：京都市上京区社会福祉協議会、京都市上京区介護予防センター、京都市内地域包括支援センター

4. 事業の概要：京都府歯科医師会上京支部では、市民検診に参加し、「歯肉溝バイオマーカ―検査」とメタボリックシンドロームの指標との間に有意の相関を認めた。今後、地域歯科保健活動を通して、認知症と口腔因子（特に機能歯数、歯周病リスク）に関する前向き調査を行ない、歯科の立場から認知症の方々のQOL向上を目指し、介護予防の一環として認知症予防の方策を探る事が出来ないかという調査事業計画を作成した。

① 健康教室での口腔健診（機能指数、歯肉溝バイオマーカ―検査）と認知機能検査等の実施を検討する。

② 各データを集計し、認知機能と口腔健診（歯肉溝バイオマーカ―検査、機能歯数）の関連を検証する。

③ 地域に歯科が参加し、「認知症」と「口腔」に関する生きた「知恵の共有」と歯科からの「地域への支援」を目指す。

5. 事業の内容：

【準備委員会・体制作り】今年度は準備委員会を組織する事から始めた。まず、地域保健活動を通して交流のある有識者数人より助言を頂き、それを元に、口腔機能と認知症の関係の調査、メタボリックシンドロームや認知症における口腔機能の重要性の啓発、多職種間の地域連携の強化を目的として、今回の一連の地域保健及び調査事業を0-D project of Kyoto【京都・口腔(Oral factor)-認知症(Dementia)計画】「口腔機能、歯周病と認知症進行に関する地域前向き調査及び地域保健事業」として位置づけ、他団体の協力のもと、認知症を支える地域連携に歯科の立場で参加できるように環境整備を行うこととした。

【調査シートの作成と調査項目の吟味】簡便な健診を念頭に置き、コスト、信頼性、実行性などから、「生活チェックシート」、「咀嚼力チェックシート」、「食品数チェックシート」、「歯肉溝バイオマーカ―検査」、及び、「BMI測定」を調査項目とした。認知機能検査に関しては、「HDS-R」、「MMSE」、「前頭葉機能検査FAB」の検討を行った。

【研修会の実施と環境整備】「認知症と歯科・口腔」に関する認識は、地域、歯科関係者ともに低いため、研修会開催を計画した。医療・介護関連機関を対象に認知症講演会を開催し、0-D project of Kyoto【京都・口腔(Oral factor)-認知症(Dementia)計画】をアピールした。京都市社会福祉協議会の認知症サポーター養成講座として、歯科医師、歯科衛生士、地域包括支援センターを対象に認知症講演会を開催、また、歯科関係者、地域包括支援センター等を対象に協力精神科医を講師に迎え、MMSE、FAB、CDRを含む「認知症検査実習研修会」を実施した。

【実施スタッフのスキル・アップ】MMSEに関しては、上記の「認知症検査実習研修会」を実施した。また、栄養調査に関しては、「食品数・食生活調査」研修会も実施した。

【連携・協力・支援】同志社女子大学実践栄養学研究室の協力により、住民向け調査を実施する。また、各地域包括支援センターにも協力を呼びかけ、京都市上京区介護予防推進センターとの連携により、高齢者向け調査を実施することとなった。

【事前準備公開講座】予備調査を兼ねて、市民を対象とした無料公開歯科健康教室「歯周病予防とメタボ」を開催、機能歯数、BMI測定、咀嚼力チェックシート、生活チェックシートを実施した。

【実施計画】次年度より約3ヵ月間隔で3回（計6ヵ月）「口腔機能」に関する健康教室を実施、或いは、介護予防教室や認知症予防教室に参加し、口腔健診と認知機能検査等を実施する予定である。継続しての追跡調査も計画している。

【課題】対面認知機能検査は、時間、マンパワー、実施人数の制限、地域包括支援センター職員の協力など、実施には困難を伴っている。さらに、認知機能検査実施には、倫理的な問題が発生し、倫理委員会の審査・承認を受ける必要が生じる。

## 【倫理委員会】

支部独自の倫理委員会設置に向け、論議を重ね、医師、歯科医師、教育者、宗教家の各分野から委員を選出した。

6. 実施後の評価（今後の課題）：今回の事業は、調査だけに止まらず、地域や他職種間でのネットワークの形成も目的の一つとし、管理栄養士や精神科医を交えた報告会を実施して、地域での「認知症」と「口腔」に関する生きた「知恵の共有」と歯科からの「地域支援」や「生活支援」の可能性を目指している。そのために、準備に十分な時間を使い、準備委員会の設立、倫理委員会の立ち上げ、各種講演会の実施、スタッフのスキルアップ研修会の実施や予備調査などを行ってきた。来年度には調査事業を開始し、前向き研究と地域への還元を実施する。地域と向き合い、メタボリックシンドロームや認知症に関わることで、歯科医療の新しい可能性を見出すことができた。

